

## 説教のポイント

心を騒がせないがよい

ヨハネ二四・一二一

私が行くところに、あなたは今ついてくることはできない」(三三・三三〇)などと言われたら置いて行かれるようで誰でも不安になるでしょう。それに続けてイエスは「心を騒がせるな」新共同訳とも言いますが、そんなの無理です」と答えたくなる言い方ですね。前の口語訳では「心騒がせないがよい」と訳されていました。大丈夫だよ、といわれたような安心感が伝わる訳です。

ちなみに、どうして大丈夫なのかというと、

あなたがたのために場所を用意しに行く」のだから。父なる神のもとへと向かうその道を、あなたは知っているはずだというイエスにトマスははつきりと「その道は分かりません」。これは、私たちの偽らざる姿かもしれませぬ。聖書を手にし、イエスも神さまも知っているのに、毎日のよ

うに道が分からなくなる。そして、心が騒ぎ始める、そんな私たちにイエスは、

心を騒がせないがよい」と。

そんなことできる？ できます！ なぜなら、

イエス「私」が道である」から。

当時のユダヤの言葉で「道」は、「デレク」といいます。踏む、踏みつけるという動詞「イレク」から来ている。「道」は、すでに誰かが踏みしめてくれたから、そこにあるのです。私たちが迷いながら進むこの道も同じ。イエスがすでに踏みしめてくださった道。弱く、傷つき、のけものにされ、嘲りを受け、血を流し、痛みを叫び声をあげ、死の恐怖に苛まれ……。このどれ一つ、イエスが経験されなかったものはない。すべての苦難の道を私たちに代わって通られた。もつと激しい苦痛と共に。同じの道を私たちが通る時、イエスは言われる。心を騒がせないがよい」。私こそその道」なのだから。